

## まちなみ景観の形成

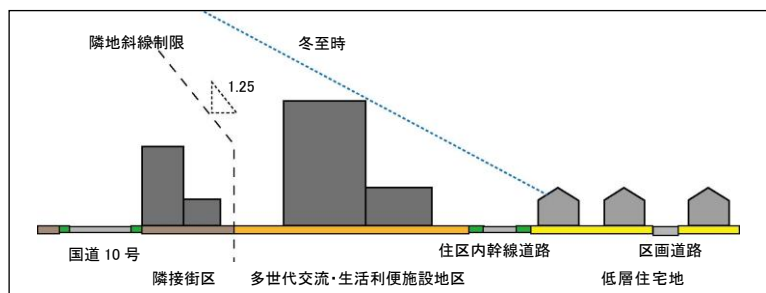
- 低層住宅の日照等に配慮したまちなみ〔中高層住宅・生活利便施設用地〕
  - ・低層住宅の屋根部分に設置される太陽光発電設備への日照等に配慮したまちなみ・建築計画
  - ・周辺と調和する色彩計画
- 快適で住みよい緑豊かなまちなみ〔低中層住宅用地〕
  - ・緑の連続した外構・オープン外構等による緑豊かな景観の形成
  - ・共有スペース創出等によるゆとりあるまちなみ
- 団地再生を印象づけるまちなみ〔UR 城野団地〕
  - ・刷新性があり低層住宅地とも馴染むまちなみ景観の形成（建築計画・外壁デザイン）
  - ・周辺と調和しつつ、生き活きとした団地再生を印象づける色彩計画
- 入口の演出
  - ・地区の入口空間の演出
  - ・エコフロント、北口駅前広場、自由通路が一体となった「地区の顔」としての景観形成
  - ・境界道路歩道の拡幅等による歩行者の安全確保
- 色彩計画
  - ・周辺（市街地及び足立山等）と調和した色彩計画



地区の顔となるエコフロントから駅までの景観（イメージ）



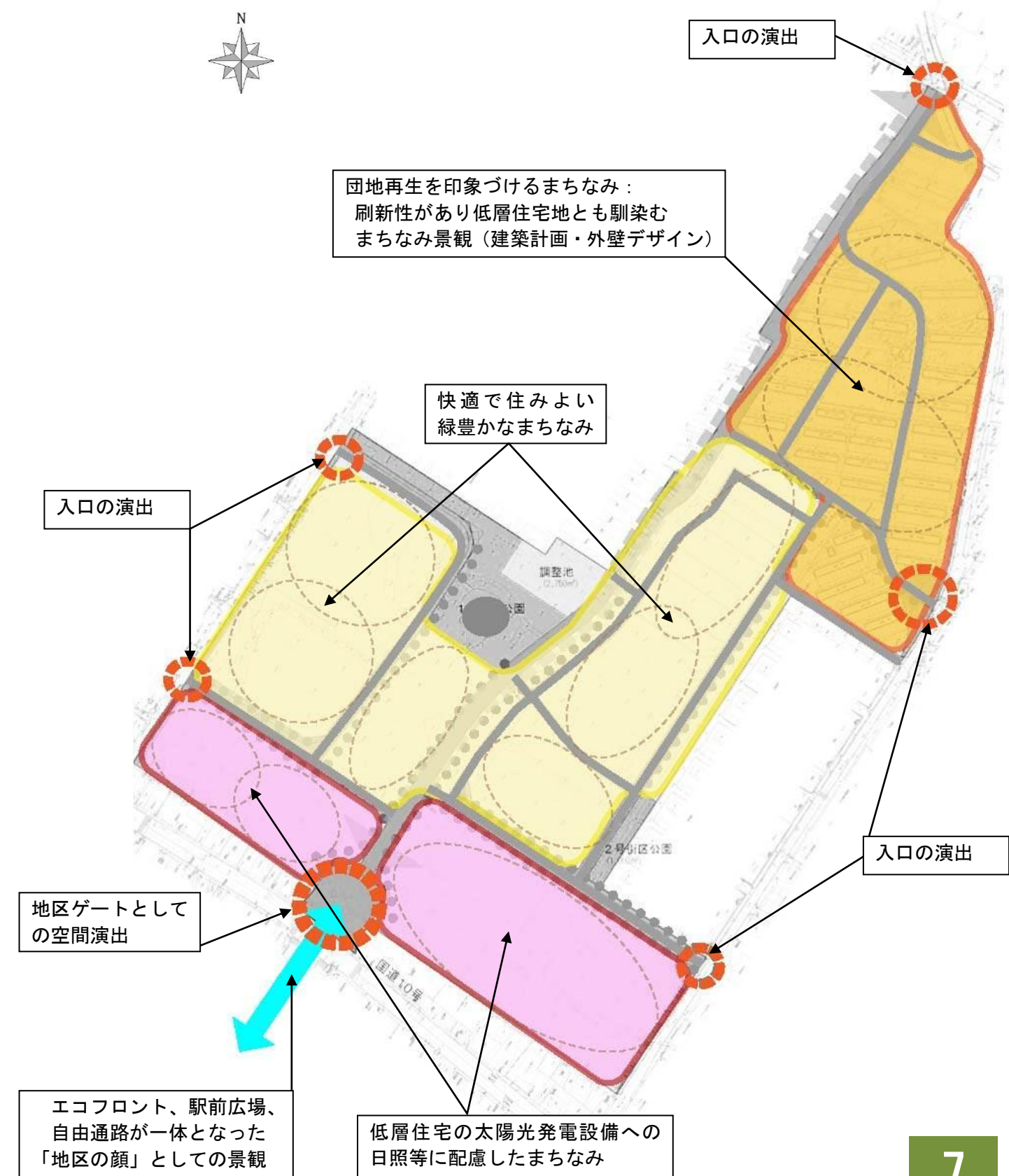
緑豊かな住宅用地の景観（イメージ）



低層住宅の太陽光発電設備への日照等に配慮したまちなみ



団地再生を印象付けるまちなみ（イメージ）





## 多世代コミュニティの推進

- エコモール沿いの賑わいの演出
  - ・賑わいを形成する店舗等の誘致
  - ・エコモールに沿ったオープンカフェ等の賑わい空間形成
- コミュニティの場としてのエコパーク整備
  - ・芝生の広場等、多目的に使える空間の整備
- コミュニティ形成を促すまとまりを持った街区形成
  - ・住宅用地を適度の大きさを持つ、まとまりのある街区として整備
- 住宅用地内での交流促進の仕掛けづくり
  - ・共有地の創出、緑豊かな外構による交流促進
- ユニバーサルデザインのまちづくり
- 防犯に配慮したまちづくり
  - ・視線を遮らない植栽等
- タウンマネジメント組織等による良好な景観の維持管理
  - ・多様な主体によるマネジメント組織による活動
- 歩行者・自転車優先の道づくり
  - ・自転車レーンの整備、安心して歩ける駅からの動線
  - ・地区界道路の歩道拡幅による歩行者の安全確保



にぎわいを生み出すエコモール（イメージ）



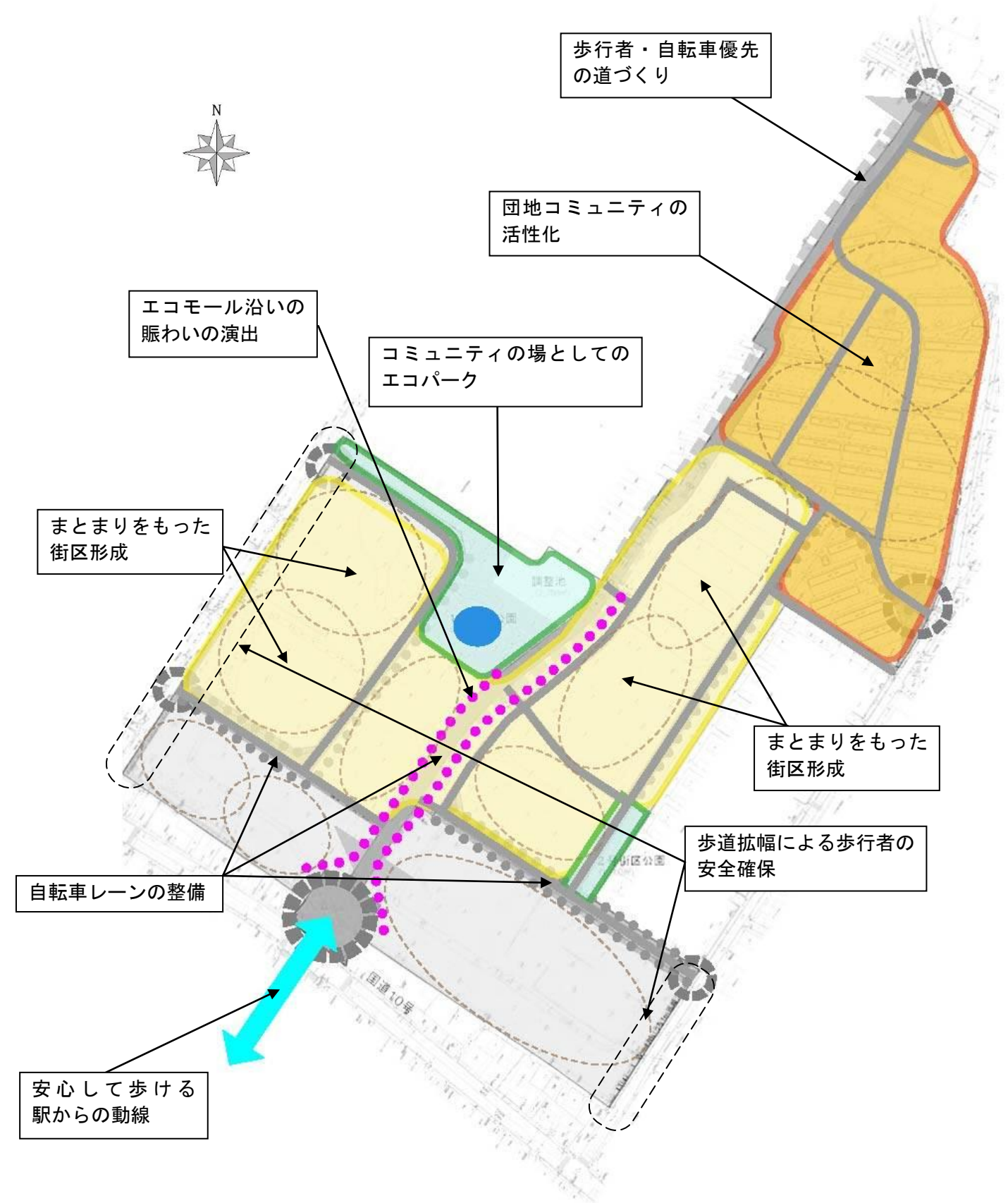
人々の交流の場としてのエコパーク（イメージ）



店舗等による賑わいの創出（イメージ）



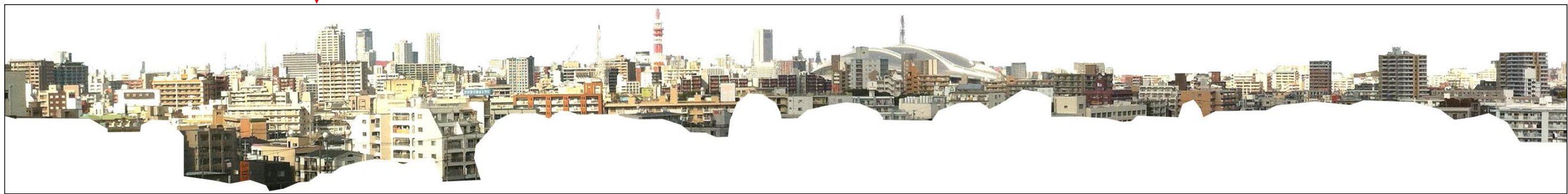
緑豊かな外構やオープン外構による交流促進（イメージ）





### 3. 色彩に関する分析

- ・ 計画対象地周囲の色彩の傾向を、現地写真を用いて分析
- ・ 市街地を一望できる地点からパノラマ写真を撮影し、市街地部分と山の部分を抽出
- ・ 山については、撮影時に雲の影に入っている部分が少なくなるよう分析範囲を設定



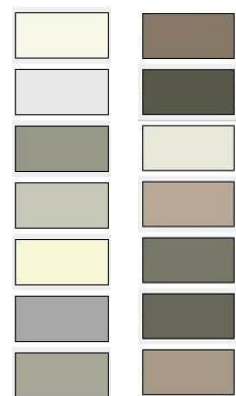
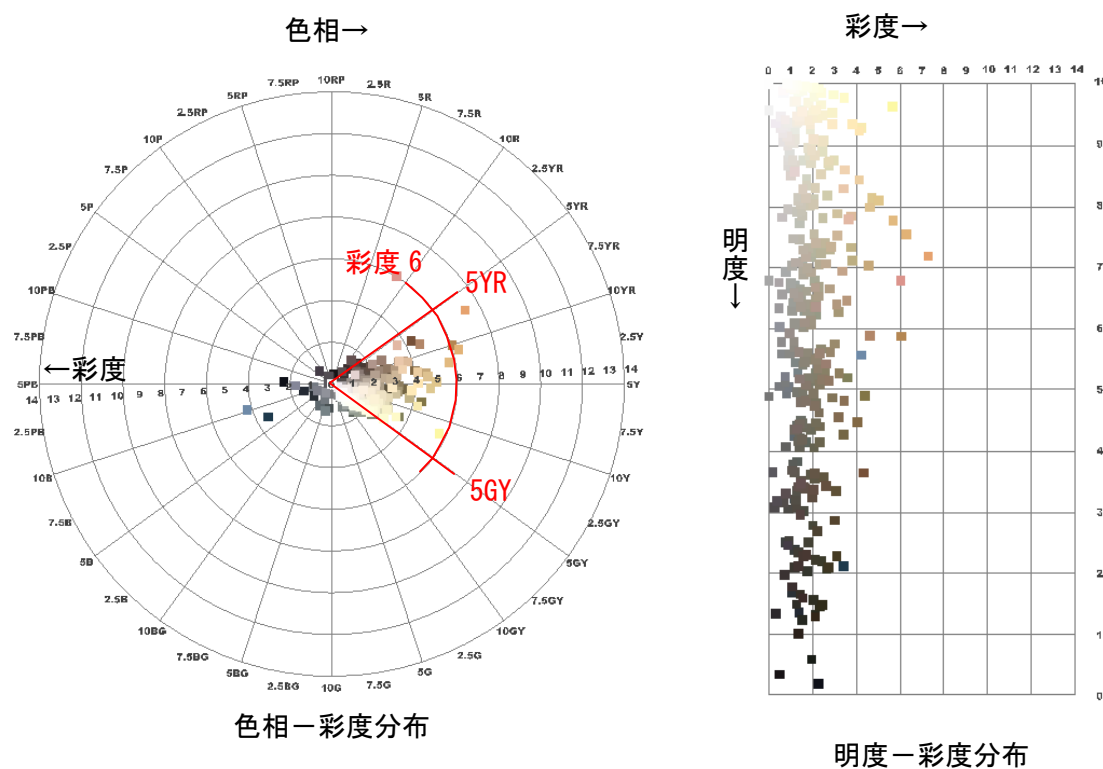
○分析結果から望まれる色彩上の配慮

- ・計画地の色彩を周辺市街地と調和させるため、次のような配慮が望まれる。  
「グレー～ベージュ～緑系の色相（5YR～5GY）から大きく逸脱しない色を用いる。」  
「彩度は概ね6程度以下に抑える。」
- ・彩度0～3：落ち着いたイメージ
- ・彩度3～6：楽しく賑わいのある雰囲気を演出



○市街地部分の色の分析結果

- ・色相についてはグレーからベージュ系（5YR～5GY）の色が多い。
- ・彩度は低い色（概ね6以下）が多い。
- ・明度にはばらつきがあるが、影の部分等の色を拾っていることも考えられる。

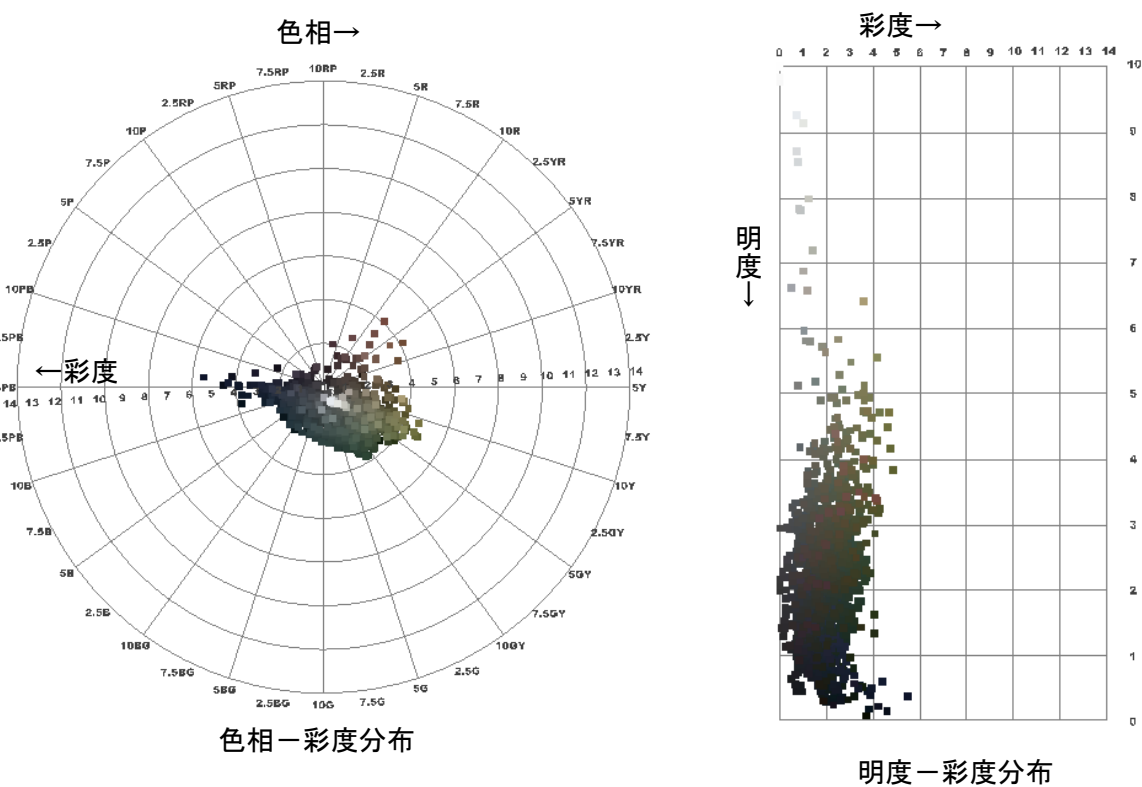


出現頻度の高い色  
(3.5～1.7%)



山部分の色の分析結果（参考）

- ・緑系の色が多いが、紅葉による茶系の色が混在している。
- ・彩度、明度とも低い色が多い。



出現頻度の高い色  
(10.0～2.0%)

